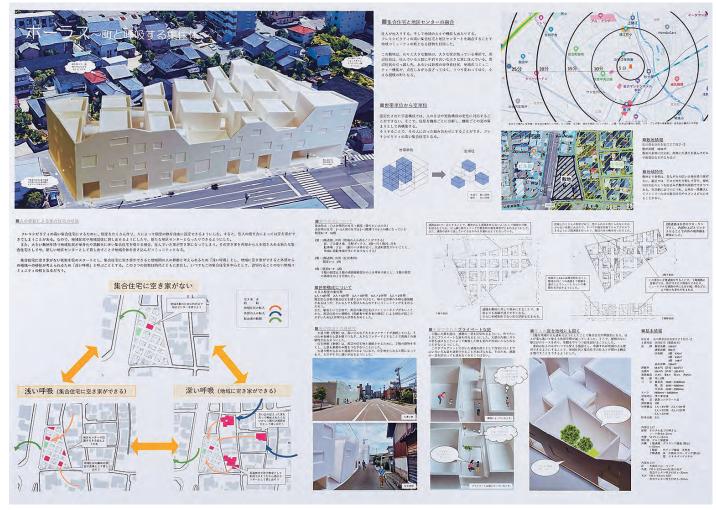
## 進優勝

## ポーラス ~町と呼吸する集住体~

## 石川県 石川工業高等専門学校 選手…3年生1名





優勝案の講評に述べたように私は、少子高齢化でまちが縮小する現 在、地区センターのような施設は地域の方が、目的がなくても気軽に立 ち寄れ交流ができる施設であるべきだと思います。そのためには地域の 徒歩圏内に地域に溶け込むように設けるか、地域の多くの人が頻繁に 利用する場に設けるべきだと私は考えます。地区センターはまさに「まち になじむ空間」がベストです。地区センターといえば一つの箱に多くの 機能が複合されるのが一般的です。これに対してこの案は、機能をま ちに分散して身近なものとしているのが特徴です。それを実現するため に2つの手法を用いています。

手法の一つは、新たな集合住宅の考え方です。一般的には想定さ れるワンセットの家族のユニットが組み合わされて集合住宅となります。 ここでは家族に必要な機能が単位としてグリット状の地域とつながる 道により分解されていて、その単位を家族構成とライフスタイルによっ て取得します。離れの集合体のような空間で、複数の家族が住む地域 とつながる「まち」ともいえます。ライフスタイルの変化によって空室がで きます。空室は他の家族が取得する場合もありますが、それ以外は地

区センターの機能として使用されまちの延長となります。

手法のもう一つは、少子高齢化で全国で問題となっている空家の 利活用です。まちに分散する空家を地区センターとすることで地区セン ターは「まちになじむ施設」になります。

このようにこの案は、少子高齢化やライフスタイルの変化で生まれて しまう空家や空室に、その時々のニーズに合わせてフレキシブルに機能 を与えていくまさにまちになじむ、今までにない新たな地区センターの 提案といえます。計画地と地域に地区センターの機能が分散され変化 に対応するという考えは、ダイアグラムとしてはとても理解できます。た だ、具体的な使われ方が見えてこなかったため、今ひとつリアリティが 感じられなかったのが残念でした。建築は、人がそこで活動して初めて 生きた空間・場となります。そこでの活動が具体的に見えるとリアリティ のある案になったと思います。ぜひ、空間・場での生活や活動を具体的 にイメージし設計するように心がけてください。優勝は逃しましたが、新 たな地区センターのあり方を示した優れた案でした。準優勝おめでとう ございます。 (堀)